



ふるさと教育の充実を目指して

御嵩町教育委員会



1 御嵩町教育の方針と重点

御嵩町教育委員会は、「21世紀御嵩町教育・夢プラン」を策定し、御嵩町が、子どもたちをはじめ町民の皆さんの「笑顔」が広がる町となるよう、各種事業に取り組んでいる。

「21世紀御嵩町教育・夢プラン」では、重点施策に「地域とふれあい、郷土を愛する心を育てる」ことを位置付け、平成11年度から、全小中学校が「ふるさとふれあい夢づくり事業」に取り組んでいる。本年度で24年目となり、これまでの実績を踏まえ、さらなる充実を目指しているところである。

「ふるさとふれあい夢づくり事業」では、子どもたちが、ふるさと御嵩町に誇りと愛着をもち、将来にわたって心の拠りどころとなるよう、各学校において「地域を学ぶ」、「地域から学ぶ」教育活動を継続的、計画的に実践している。地域に出向き、地域を巡って、地域についてより深く知ること、地域の方々との交流を通して、地域に生きる人々の思いに触れることなど、五感を通して学ぶ体験活動を重視し、自分の住んでいる御嵩町についての自分なりの思いを広げ、深めていくことができるよう、教科や総合的な学習の時間等においてそれぞれの学校で創造的な学びが進められている。

2 ふるさと教育の取組

(1) 歴史と文化の町としての強みを活かす

御嵩町は、町の中心を旧中山道が横断し、御嶽宿、伏見宿の旧宿場町で栄えてきた町である。中山道に由来する名所旧跡も多く、御嵩町を訪れる方々にも楽しんでいただけている。名鉄広見線の御嵩駅を降りるとすぐに願興寺がある。願興寺本堂は1986年(昭和61年)に国の重要文化財に指定されており、本堂に安置されていた本尊ほか二十四躯の仏像は1914年(大正3年)に国宝に、その後、国の重要文化財に指定されている。本堂は、現在、平成29年から始まった解体修理が進められており、令和8年の完了を目指している。この解体修理の過程に

おいて、歴史的背景や当時の庶民の生活の様子などを明らかにする調査研究が進められ、新たな発見もされている。さらに、願興寺は、戦国最強の武将と謳われる「可児才蔵」の生誕の地として知られる場所でもある。



願興寺本堂解体修理の様子 2022. 11

また、御嵩町は、昭和初期にかけて亜炭の町として栄え、多くの人々が亜炭の採掘に従事し、日本の経済成長を支えた町でもあった。御嵩町のこうした歴史や文化は、町の大きな資産であり、ふるさと教育の実践にこれからも活かしていきたいと考えている。

具体的な実践として共和中学校の中山道を教材としたふるさと学習を紹介する。

共和中学校では、ふるさと学習への取組として中山道をメインのテーマに掲げ、①ふるさとのよさの発見、②ふるさとへの愛着心の醸成、③ふるさとに生きる意欲の喚起を目指して総合的な学習の時間を中心にふるさと教育を実施している。町の学芸員が学校へ出向き、中山道の歴史や史跡についての講話を事前に行い、その後、実際に中山道を歩き、当時を偲びながら自分の目で確かめ、体感することで、御嵩町のことをより深く知り、この歴史的環境をどのように守り、未来へとつないでいくのかを子どもたちが考え合った。子どもたちは、知識として得た御嵩町の歴史を、体験を通してより確かなものとし、自分事として捉え、これからの御嵩町の在り方を見つめ、考えることができた。

(2)地域の教育力を活かす

保護者、地域の方の、学校や子どもたちを支える献身的な姿や思いの強さは、御嵩町のすばらしさであり大きな財産である。また、御嵩町の豊かな自然に触れたり、歴史や文化を学んだり、スポーツに親しんだりすることも、地域との絆を深め、ふるさとへの誇りや愛着を育んでいくことにつながっていく。温かい人間関係に包まれた町で育ち、豊かな時間や場を共有することで、ふるさとへの思いは、自然と育まれていく。御嵩町では、こうした地域の教育力の高さを活かすために、平成26年に「御嵩町立小・中学校における学校運営協議会の設置及び運営等に関する規則」を策定し、全小中学校に学校運営協議会を設置した。また、令和元年度には、「御嵩町地域学校協働本部事業実施要綱」を策定、「御嵩町地域学校協働活動推進手引き」を作成し、令和2年度に御嵩町地域学校協働本部を設置した。学校運営協議会と地域学校協働本部が一体的に地域と学校の連携・協働を推進していくことができるよう、設置の趣旨や先行実践事例について学び合う場を設けるなどしてその充実に取り組んでいる。

具体的な実践として上之郷中学校の茶園活動を通したふるさと学習を紹介する。

上之郷中学校の茶園活動は、昭和30年に産業教育、勤労体験としてお茶を作り始めたのがきっかけである。この活動で作るお茶は、五つの山が船の舳先に合わさるように集まった所に茶園が開かれたことから「舳五山茶」と名付けられた。代々に渡り、中学校が地域の方の協力を得て、舳五山茶の栽培を行ってきた。無農薬での栽培を行うため、何よりも茶園の除草作業に大変な苦勞があり、その作業の協力依頼等を学校が担ってきた。学校運営協議会、地域学校協働本部が設置されたことにより、こうした作業の段取り等を協働本部が主体となり、地域に呼びかけて実施できるようになり、学校が担ってきた役割も軽減されることになった。除草作業には、協働本部の呼びかけに対して多くの地域の方が自主的に参加され、子どもたちとともに汗を流して下さっている。子どもたちはこうした地域の方々の献身的な姿を通して地域に生きることの喜びや充実感を体感することができている。

3 教育委員会によるふるさと学習へのアプローチ

御嵩町教育委員会は、「ふるさとふれあい夢づくり事業」の各学校における取組に対して、様々な面からサポートを行っている。町学芸員の出前講座、中山道を歩くなどの体験学習時の史跡のガイドや解説、中山道みたけ館や竹屋資料館での各種展示や講座、児童生徒の見学時の説明など、各学校からの要請に応じて積極的に協力を行っている。また、今年度11月には、関係部局と連携した可児才蔵講座を関ヶ原古戦場記念館で開催し、併せて、「みたけのええもん物産販売」を行った。ここでは、先に紹介した上之郷中学校の舳五山茶を生徒たちが実際に外向いて販売体験し、御嵩町をアピールする取組を行うこともできた。地域と連携したふるさと学習についても地域学校協働活動の担当者会議を定期的で開催し、活動状況の交流や活動計画の見通しなどについて協議し、さらなる連携強化に向けた取組を行っている。



舳五山茶販売体験の様子 2022. 11

今後も、各学校の児童生徒に郷土の歴史や文化財について学ぶ機会や、地域の方々との交流、協働による様々な体験学習の機会を積極的に提供したり、サポートしたりしていくことを通して、地域を見つめ、郷土への誇りと愛着をもつ子どもたちを育てるふるさと教育の推進に努めていく。